

へいせい ねんど きょうとふがいかくせきふみんきょうせいせさくこんだんかい  
平成 21 年度 京都府外国籍府民共生施策懇談会  
こんだんかい いけん  
懇談会の意見のまとめ

がいこくせきふみん こうか じょうほうでんたつ かん  
1 外国籍府民への効果のある情報伝達に関すること

いけん で ぐたいてき と く かだい  
(意見で出た具体的な取り組みの課題)

あんしん あんぜん かん じょうほう た ひつよう じょうほう がいこくせきふみん  
○安心・安全に関する情報、その他必要とする情報が、すべての外国籍府民  
とど こうかてき じょうほうていきょう ほうほう けんどう  
に届けられる効果的な情報提供の方法を検討すること

たげんご ていきょう にほんご つ じょうほう  
○多言語による提供とともに、やさしい日本語(ひらがなやルビ付き)による情報  
ていきょう つと  
提供に努めること

にほんごかくしゅうしえん きょうしつ かいさいとう がいこくせきふみん じょうほうしゅとく  
○日本語学習支援、パソコン教室の開催等、外国籍府民が情報取得しやすく  
かんきょう つと  
なる環境づくりに努めること

げんじょう かだい  
(現状・課題)

「外国籍府民への効果のある情報伝達」に関しては、大きな課題として、ホーム  
ページが多言語化による発信など、行政が提供している情報が、情報を必要と  
している外国籍府民にいきわたっているとは言えず、そうした情報提供がされてい  
ることすら知らない外国籍府民が多いという御意見がありました。生活する上で  
居住市町村からの情報提供も重要となりますが、市町村によっては、  
外国籍住民のための情報提供自体が充分に行えていないところも少なくない  
のが現状です。

がいこくせきふみん じょうほうていきょうほうほう さまざま しゅっしんこく ちいき こ かたがた  
外国籍府民への情報提供方法は、様々な出身国(地域)から来られた方々へ  
はいりょ ひつよう たげんごか ていきょう にほんご かんじ  
の配慮が必要であり、多言語化による提供をはじめ、やさしい日本語(ひらがなや漢字  
ていきょう ひつよう がいこくせきふみん にほんじん どうよう  
にルビがふられたもの)での提供も必要です。また、外国籍府民が日本人と同様に

じょうほうしゅとく にほんご がくしゅうしえん じゅうじつ もと  
情報取得 ができるよう、日本語の 学習支援 の 充実 も求められます。

げんざい じょうほうていきょう しゅりゅう そうさ  
現在、インターネットによる 情報提供 が 主流 となっていますが、パソコン操作  
ができない方などを 対象 としたパソコン 教室 の開催も必要です。

## 2 コミュニケーションのためのネットワークづくりに関すること

いけん で ぐたいき と く かだい  
(意見で出た具体的な取り組みの課題)

がっこう かいしゃ ぞく かてい じよせい はいりよ と く すす  
○ 学校 や会社 などに属さない家庭にいる 女性 に配慮した取り組みを進めること

いぶんかりかい そうごりかい こうかてき りょうり しょくじ おんがく かつよう こくさい  
○ 異文化理解、相互理解に効果的な「料理 (食事)」や「音楽」を活用した国際  
交流事業 を実施するなど、日本人と外国人が 出会う「場」の 提供 に努める  
こと

こうりゅうだんたい れんけい と く ちいき あら こうりゅう う しく  
○ 交流団体 が連携 できる取り組み、地域で新たな 交流 が生まれるような仕組  
みづくりに努めること

げんじょう かだい  
(現状・課題)

「コミュニケーションのためのネットワークづくり」に関しては、かん がいこくせきふみん であ  
いの「場」が少なく、ば すく がいこくせきふみん きがる そうだん だんたい きんりん そうだんあいて  
外国籍府民が気軽に相談 できる団体や近隣における相談相手  
がみつからないという御意見がありました。  
ごいけん

げんざい にほんぜんたい ひと こりつ しゃかい なか がいこくせきふみん  
現在、日本全体が人が孤立しやすい社会 となってきた中で、こりつ かんきょう がいこくせきふみん こりつ とく がっこう かいしゃ  
外国籍府民が孤立しないよう、特に学校や会社な  
どに属さない家庭にいる女性への配慮が 重要 です。  
ぞく かてい じよせい はいりよ じゅうよう

いぶんかりかい そうごりかい りょうり しょくじ おんがく ひじょう こうかてき  
異文化理解、相互理解のツールとして、「料理 (食事)」や「音楽」は非常に効果的  
であり、そうしたツールを活用した出合いの「場」としての かつよう であ ば こくさいこうりゅうじぎょう せっきよくてき  
国際交流事業 に 積極的

と く ひつよう ごいけん  
に取り組んでいただくことが必要との御意見がありました。

さまざま がいこくじん だんたい かんこく みんだん こじん ちい あつ  
様々な外国人の団体（韓国であれば民団など）があり、個人レベルの小さな集ま  
りもあります。こうした団体等をつなぎ、ネットワークを拡げて、外国籍府民の  
交流機会を増やしていくことが必要であり、さまざまな団体等が連携できるような取り  
組みや、地域で新たな交流が生まれるよう「交流マニュアル」のようなものを作成  
することも考えられます。ネットワークが拡がれば、情報は自然に伝達されるので、  
効果的な情報提供にもつながるものです。

こんねんど こんだんかい いけん がいこくせきふみん ふせい さんか すいしん  
今年度の懇談会の意見のとりまとめにあたり、外国籍府民の府政への参加を推進し、  
外国籍府民と共に生きる京都府づくりを進めていくため、本懇談会の意見を踏まえた  
取り組みがなされるよう報告いたします。

きょうとふがいこくせきふみんきょうせいせさくこんだんかい  
京都府外国籍府民共生施策懇談会

へいせい ねんど きょうとふがいこくせきふみんきょうせいせさくこんだんかい  
平成 21 年度 京都府外国籍府民共生施策懇談会  
おも いけん こべついけん  
主な意見（個別意見）

ほうこく  
報 告 1

がいこくせきふみん こうか じょうほうでんたつ  
【外国籍府民への効果のある 情報伝達 について】

- ▶ 北部に住んでいるが、16年前に来日した時は地域に外国人もほとんどおらず、日本で暮らすための情報が得られなかった。日本で当たり前前のことがわからず、誤解されるケースが多かった。
- ▶ 外国人の一番の悩みは日本語。京都府国際センターや 京都市国際交流協会 で受講料が安価な日本語教室が開かれているが、そうした情報を知らない外国人が多い。他のことについても、誰に相談したらよいか、どのようなことが相談できるかが知られていないだけで困っている人が多いと思う。
- ▶ 異国の地で生活するのが精一杯で情報を得ることが出来ない人間がたくさんいる。ホームページの情報があるというが、パソコンを使えない人も多い。
- ▶ どの機関のホームページがよいかの議論は必要だが、専用サイトを設け必要な情報先にリンクしておけば情報入手が容易になると思う。
- ▶ ホームページの情報をみるため、パソコンを習おうと思ったが料金が高い。行政で、日本語があまりわからない人を対象としたパソコン教室を開催して欲しい。
- ▶ 一定の年齢以上の方なら携帯電話を持っておられる方が多い。携帯電話を利用した各国語での情報提供をして欲しい。既に京都府国際センターで実施しておられるが、存在を知らない人が多いのが問題。
- ▶ 在日外国人も国民健康保険、国民年金に加入できるようになったが、この制度のことがどの程度知られているのか、加入状況がどうなのかに関しても関心があり、心配もしている。日本で生活することを前提としている外国人は、生活し続けていくうえで必要不可欠な年金などの日本の制度を知らないと、将来つらい思いをすることになる。
- ▶ 災害の際の情報に関しては、多言語で対応して欲しい。
- ▶ 外国人が日本で受けられるサービスというのはたくさんあると思うが、情報がうまく伝わらず十分活用されていないというのが現状ではないか。使える情報が届く体制作りが必要であり、それが機能しているかどうかの定期的な確認も大切である。

▶ 情報伝達 の手段 としては、共通語 としての日本語が 重要 。いろいろな言語で  
対応 することも必要 だが、それよりも日本語の 学習普及 や 充実 した 学習機会 が  
提供 できないか。

例えば、ドイツやカナダに移住 する場合は、政府の許可がおりた時点で、無料で  
その国の語学が学べる。強制的 に勉強 しろといふとかえって 逆効果 だが、  
日本語を学びたい人の希望にこたえる 環境 をつくるのが大事。

▶ いろいろな国籍の方が住まれており、それらの方々の間では、日本語が一番よく  
わかる言語になっている。また、初級 を終えた 中級 レベルの方が一番多い。そ  
うした方々が読めるやさしい言葉で書かれた読み物、ふりがなをふったものなどがあ  
れば、日本語の 練習 にもなる。

▶ ボランティアの人数と活動数を見たところ、活動している人が少ない。日本語を習  
いたい人はたくさんいて、教えたい人もたくさんいるのにマッチングできていないの  
ではないか。

交通費だけでも出して、北部に週に1回でも日本語指導に行っていたらという  
のは効果的ではないか。また、そうした場で 情報 を伝えていくしくみが作れないか。

▶ いろいろな情報、例えば行政の情報 が伝えられたり、外国人のニーズをきいて  
一緒に考えたり、ボランティアによる日本語教室では、単に日本語の技術 を伸ば  
すだけではなく違う意味の位置付けがあるのではないか。

▶ 日本語教室は都市部にしかない。北部では、綾部、福知山、舞鶴などでボランテ  
ィアの方が教室 を立ち上げておられるが、それぞれ市の中心部に1つだけという  
状況。中学校区に1つぐらいいはそういった場がないと、車に乗れない人は  
教室に行けない。そうした場を地域住民が立ち上げられるよう、日本語教室立ち  
上げアドバイザー派遣や、ボランティア育成、公民館や隣保館が手軽に利用できる  
システムづくりなどの支援が必要。

▶ 若い人は余りボランティアをしない傾向があり、退職をされた方、主婦など時間  
に余裕のある方がされているというのが現状で、ボランティアできる時間帯が昼間で  
ある場合が多い。勉強したい外国人の方の中には、仕事があり、夜間に教室を開  
いて欲しいという声強いが、ボランティアが提供 できる時間と学びたい人のニー  
ズが合っていないというのが問題。

▶ 若い年代の人たちをボランティアに引き込む工夫が必要。PTAなどを単位とし  
て、校区内での互助的なネットワークなどの組織づくりができないものかと思う。府  
のPTA連合組織体に働きかけできないか。

▶ 日本語教室のボランティアは、自腹を切って教材 を買いそろえ人もいるなど、

ぎせいてき せいしん な た なん しえん おも  
犠牲的な精神で成り立っている。何らかの支援ができればと思う。

- ▶ あたら きょうと こ かた いりぐち かくしちょうそん がいこくじんとうろく  
新しく京都に来られる方については、入口である各市町村の外国人登録  
まどぐち かくしゆ じょうほう つた ほ かみ わた よ  
窓口で、しっかり各種サービスの情報を伝えて欲しい。たくさん紙を渡しても読  
ひと おお しぼ つた じゅうよう  
まない人が多いのでポイントを絞って伝えることが重要。  
▶ にほん せいかつ こま ひと おお りっぱ かみ たと  
日本の生活になじめないで困っている人は多い。立派な紙でなくてもよいので、例  
かいらんばん じょうほうていきょう  
えば回覧板で情報提供できないか。  
▶ いんさつぶつ はいふ ふ し ちやくせつそうふ よ ちょうない じちかい  
印刷物の配付について、府や市から直接送付されれば良いが、町内（自治会）  
くばら なぜ がいこくじん ふあん ひと で  
から配られると「何故外国人とわかったのか。」と不安になる人が出てくるので、  
しんちょう ひつよう  
慎重さが必要。  
▶ にせい ざいにち じょうほう りよう  
コリアン二世では、在日のネットワークがたくさんあり、情報を利用していい  
る。  
▶ がいこくじん だんたい きょうとふ れんけい つよ ていきてき  
外国人の団体はいろいろあるが、京都府との連携をもっと強めて、定期的あるいは  
こうじょうてき れんたい じょうほうでんたつ  
は恒常的に連帯できれば、情報伝達のツールになる。  
▶ じょうほう し とき かつこく だんたい かんこく みんだん ふじんかい りよう  
情報を知らせる時は、各国の団体（韓国であれば民団や婦人会）を利用する。  
いなか まちなか じょうほう い わた じよせい ちから おおきい  
田舎でも町中でも情報が行き渡るのは女性の力（ちから）が大きい。  
とくに ふじんかい つか こうかてき  
特に、婦人会を使うことは効果的。  
▶ ちゅうごく かんこく おお そしき くに ひと じょうほう も  
中国や韓国のように大きな組織がない国の人には、情報のルートから漏れる。  
かしよ じょうほう じょうほう とど たいせい ひつよう  
1カ所で情報をまとめ、情報が届く体制をつくる必要がある。  
▶ がいこくじん そしき にほんじん はい がいこくじん みずか  
外国人だけの組織にすると日本人が入ってこないこともある。外国人も自ら  
にほんじん はい たいせつ  
日本人のネットワークに入っていくべきではないか。大切なことはトラブルがあった  
とき どこ い じょうほう にゆうしゆ わ  
時に何処に行ったらいいのか、どう情報を入手できるかといったことが分かるこ  
と。

## 【コミュニケーションのためのネットワークづくりについて】

- ▶ 留学生 や子供に対するケアは 充実 してきているが、外国籍 の奥さんやお母さん達に対するサポートが必要。奥さんやお母さんは、家族の 就職等 により成人してから日本に住む。日本の生活 がうまくいくためには、日本社会 に受け入れられていると感じることが必要。そのためには、日常生活 の中で外国人 と日本人が友達 になれるようなシステムができるといいが、出会いの場がなかなかない。
- ▶ 東京 では、児童館が大学のボランティアとか地域の方の 協力 を得てサポートされているようである。
- ▶ 外国人 ボランティアの方が、自分の日本での 経験 を新しく日本に来た奥さん方に伝えるというようなことを組織的にできれば、多くの人の役に立つのではないと思う。外国人 の奥さん方は大人になってから日本で生活を始めるため、職場や学校といったコミュニティの場を持つ御主人や子供と比べ倍以上の 難 しさがあると思う。
- ▶ ボランティアの方々が、外国籍 のお母さん方と出会う手立てがない。学校では個人情報 であるからといって誰が外国人 か教えてもらえない。交流会 のようなものが地域の中でできるようなマニュアルを作って欲しい。
- ▶ フットワークの軽い学生 であれば、ホームページを見て調べられるが、子供のことで手が一杯のお母さん方に有効なネットワーク手段は、口コミ、電話、立ち話、回覧板 など。地域の小さい単位で 交流 できる場が増えていったらよい。
- ▶ 自分の 経験 で言うと 行政機関 でいろんな 情報 を得ることができる。また、地域住民 と仲良くすることがいいやり方だと思う。マンションの管理組合の 会長 をやったことがあるが、他の 住民 さんに温かく迎えてもらった。実は、住民 の方は非常に優しい。いろいろ助けてくれる。
- ▶ 日本人と外国人 の 交流 の場の一つが 町内会 である。高齢の方になると、まだ、外国の方は怖い、何をされるかわからないという意識を持っておられる方がいるが、運動会 や敬老会、いろいろな 行事 を一緒にして触れあえば、偏見が取り払われ、認識 を共有 することができ、外国人の方と一緒に住みよいまちづくりができるようになるのではないか。
- ▶ 日本全体が人が孤立しやすい社会 になってきている。地域社会の 絆 を強くすることが、外国人のためにも、日本人のためにもなる。

- まわ がいこくせき かあ がた いっぽ ふ こ かいわ にほんじん ともだち  
 ▶ 周りの 外国籍のお母さん方が、一歩踏み込んだ会話ができる日本人の友達ができない、日本社会に受け入れられている気がしないといった現状であることを知り、  
 かあ しんぼくかい た あ はんぶん いぶんか きょうみ にほんじん  
 お母さんたちの親睦会を立ち上げた。半分以上は異文化に興味のある日本人の  
 かあ ぶんか ちが はな あ たの  
 お母さんたちで、文化の違いを話し合ったりし、楽しくやっている。
- えんりょ ちゅうごくご こうりゅう かい つく おも こえ  
 ▶ 遠慮なく中国語で交流できる会を作りたいと思い、いろいろなところで声をかけ「嫁の会」というものを作った。その日に限っては文化の違いなどを中国語で  
 じょうほうこうかん  
 情報交換している。
- こども おお まえ にほんご おぼ ひつよう おも こども かよ ほういけん  
 ▶ 子供が大きくなる前に日本語を覚える必要があると思い、子供が通う保育園や  
 ようちえん せんせい けいけん ほごしゃ にほんご おし ねが  
 幼稚園の先生を経験した保護者に日本語を教えるようお願いした。その  
 べんきょうかい いま つづ がいこくじんじしん じぶん こうどう  
 勉強会は今も続いている。外国人自身も自分から行動しないといけない。
- ちゅうごくじん かんこくじん だんたい おお れんけい じょうほうこうかん  
 ▶ 中国人や韓国人の団体は多い。そういうところと連携して情報交換すること  
 ともだち かつどう  
 ができれば、友達もできて、ボランティアのような活動もできるのではないかと  
 りゅうがくちゅう ほか りゅうがくせい がいこくじん であ きかい おお しぜん  
 ▶ 留学中には他の留学生もいたり、外国人と出会う機会が多ければ、自然にネ  
 さき にほん き かつ  
 ットワークができる。先に日本に来ている方からアドバイスをもらったり、その方  
 とお にほんじん ともだち そうだん あいて ともだち きらく そうだん  
 を通して日本人の友達もできる。相談する相手が友達であれば気楽に相談できる  
 こともある。
- がいこくじん かがた にほんじん さんか たが りかい ふか じょうほう  
 ▶ 外国人の方々のネットワークに日本人も参加して、お互いに理解を深め、情報を  
 こうかん  
 交換できればよい。
- ひろ かに いばしょ がいこくじん おく  
 ▶ いろんなネットワークをつなげて広げていって、家庭しか居場所がない外国人の奥  
 たち こりつ ひと こうりゅうきかい ふや と のこ ひと  
 さん達など孤立している人たちの交流機会を増やし、取り残される人がないよう  
 りそう  
 にできるのが理想。
- こくさいこうりゅう しせつ おお りょうりつ かんぜんぼうおん おんがくしつ ひつよう  
 ▶ 国際交流のための施設は大きな料理室、完全防音の音楽室が必要。  
 かんこくがっき えんそうかいとう おお にほんじん さんか おどろ にほんじん  
 韓国楽器の演奏会等でも、多くの日本人が参加しており驚いた。日本人も  
 せっきよくてき こうりゅう かんぜんぼうおん おんがくしつ  
 積極的に交流したがる。完全防音の音楽室はなかなかないので、  
 しょうがっこう たいいくかん か だ ふく けんとう ほ  
 小学校の体育館の貸し出しなども含めて検討してほしい。
- きょうとふめいようこうたいし かつどう か はし やくわり ひじょう じゅうよう  
 ▶ 京都府名誉友好大使の活動は、架け橋のような役割で非常に重要なもの。
- こじんかん けいせい おも ひと あつ ばしょ かくほ  
 ▶ ネットワークづくりは個人間で形成されるものと思うが、人が集まる場所の確保は、  
 けいざいてき ふたん おお こうてき ばしょ わりやす ぎょうせい てはい よ  
 経済的に負担が大きい。公的な場所を割安で行政が手配することができたら良い  
 おも  
 と思う。
- にほんじん たい がいこくじんこうし がいこくぶんか しょうかい たいせつ ぎやく  
 ▶ 日本人に対して、外国人講師から外国文化を紹介することも大切だが、逆に  
 にほんじん ざいにちがいこくじん にほんぶんか しょうかい とりく だいじ  
 日本人が在日外国人に日本文化を紹介する取り組みも大事。  
 とりく つう ちいき がいこく かつ じょうほう にゅうしゅ  
 取り組みを通じて、地域にこんな外国の方がいるという情報も入手できる。
- こくさいこうりゅう よ にちじょうせいかつ かんが かい お かんけい  
 ▶ 国際交流イベントも良いが、日常生活を考えると、1回で終わらない関係、

つづ かんけい だいい  
続く 関係 をどうやって ネットワーク で つくっていく かが 大事な こと。

- ▶ ひと ひと であ ば だいい ば ていきよう じゅうよう  
人と人が 出会う 場 が 大事 であり、「場」を どのように 提供 する かが 重要。
- ▶ がいこくじん にほんじん であ ひつよう がいこくじん がいこくぶんか きょうみ  
外国人 と 日本人 が 出会う ことが 必要 であり、どこかに 外国人 や 外国文化 に 興味 の

ある 人たちが 登録 できる バンク の ような ものが つくれたら 良い。

- ▶ にほんこくせき ちゅうごくご かた にほんご はな とし と わす  
日本国籍 だが 中国語 しか できない 方、日本語 を 話せて いても 年 を 取ると 忘れて しま  
まい、母語 しか 話せ なくなる ことも あり、ニューカマー の 方 や 仕事 が 見つからない  
ざいにちが いこくじん かた かいごめんきよ と ていきよう ほ  
在日外国人 の 方が 介護 免許 を 取りやすくなる サービス も 提供 して 欲しい。

これからは、通訳 ボランティア も すごく 大事 になって くる。

- ▶ しみん ぎょうせい はっしん  
市民 レベル の コミュニケーション と 行政 が 発信 すべき コミュニケーション が あると  
おも びょういん ねんきん もんだい がいこくじん かた せいかく つた こうほう  
思う。病院 や 年金 の 問題 などが 外国人 の 方に 正確 に 伝わる よう 広報 するなど、  
ぎょうせい ほ  
行政 として すべき コミュニケーション は やって 欲しい。

- ▶ がいこくじん がいこく きやく きも ほんにん まわ  
外国人 は、外国 から の お客 という 気持ち が 本人 にも 周り にも ある のではないかと  
おも ほんにん なに ま じぶん きやく にほん  
思う。本人 が 何か してもら う のを 待つ のではなく、自分 は お客 ではなく、日本 に  
す にんげん じぶん じぶん ようぼう  
住む 人間 という ことで 自分 から やり、自分 の 要望 は こうで、こういう ことが したいと  
おも たいせつ おも こじん でき かぎ おも  
思う ことが 大切 だ と思う。しかし、個人 で 出来る ことは 限られる ので、そういう 思い  
もつ ひと そうだん しえん きょうとふ きょうとし ちから ひつよう おも  
を持つ 人 の 相談 に のると か 支援 と いった ことは 京都府 や 京都市 の 力 が 必要 と思う。

- ▶ がいこくせき ふみん ほか そしきかん きばん きょうとふ きょうとし  
外国籍 府民 と 他 の 組織 間 の ネットワーク づくり の 基盤 である べき 京都府 と 京都市 の  
れんけい と おも てん かいぜん がいこくせき ふみん かん  
連携 が 取れて いない よう に 思う。この 点 を 改善 しなければ 外国籍 府民間 の ネット  
すすま  
ワーク が できても、そこから 進まない こと になる。

- ▶ じょうほう しぜん でんたつ じょうほう でんたつ  
ネットワーク が あれば、情報 は 自然 に 伝達 される。情報 伝達 と ネットワーク は  
いったい  
一体 である。

た  
【その他】

こくせい かん  
(国政に関すること)

- ▶ 外国籍府民が日本で暮らすよい環境ができて、根本部分の解決が図られないといけない。日本で何十年住んでいても空港の入管で特別な扱いを受ける。選挙権があれば周りの人間や社会の見る目も変わってくる。
- ▶ 外国籍府民が、地方参政権に反対している議員の方々と話をする機会をつくってほしい。

ほんこんだんかい かん  
(本懇談会に関すること)

- ▶ 外国人問題は範囲が広い。踏み込んだ話をするにはテーマを絞っていかないと難しい。
- ▶ 懇談会の目的は、何かの問題を改善しなければいけないとか、苦情の受付場ではないと思う。どのように話し合う場なのかを事前に分かりやすく説明することが大切。
- ▶ 日本語に不慣れな方は議論されている意味が理解できないこともある。懇談会はずべて日本語で行う必要はなく、必要に応じて通訳の方をお願いしたほうが良い。
- ▶ 公募委員任期が1年であり、委員が代わってゼロから話し合うのは無駄とは言わないが、もったいない。任期を2年としても良いのではないかと。
- ▶ これまでの提案がどのように活かされたか(活かされる予定か)、ぜひ懇談会で報告していただきたい。一朝一夕に解決する問題ばかりではないが、一つでも実現したことがあれば、懇談会委員の励みにもなる。
- ▶ 委員以外のいろんな方からの意見を吸収して、議論に活かすため、ホームページに掲載している懇談会の結果を読んだ方々が、意見を書き込めるなどの仕組みづくりをしてほしい。
- ▶ いろんな国籍の方が委員となっているので、委員各自が自分の国のことをPRし、交流を深める時間も欲しい。
- ▶ 今後、外国籍の方が参政権を手にもされることになっても、まだまだ外国籍の方が困っておられる現状やそれに対する日本人の無関心さは簡単には変わらないように思う。今後も多文化共生について話し合う場が確保されればと思う。

- ▶ 懇談会こんだんかいを発展はってんさせ、一時的な対策いちじてき たいさくではなく、継続的な提案等けいぞくてき ていあんとうができるような検討組織けんとうそしきができると良い。

た  
(その他)

- ▶ 参政権さんせいけんや公務員採用こうむいんさいようなどについては、行政ぎょうせいが消極的しょうきょくてきな対応たいおうをする一方で、こうした外国籍府民がいこくせきふみんの懇談会こんだんかいを開くなどしている。行政ぎょうせいがどこまで外国籍府民がいこくせきふみん向けの施策せさくを行おうとしているのかわからない。
- ▶ 役所やくしょの中に在日外国人なかにちがいこくじんのための窓口まどぐち（総合窓口そうごうまどぐち）を設置せっちして欲しい。
- ▶ 国際センターこくさいや国際交流協会こくさいこうりゅうきょうかいの敷居しきいは高い。日常生活にちじょうせいかつの中で、ちょっと助けてたすと言える場所ばしょができるとよい。
- ▶ 結婚けっこんして日本にほんに来た女性き じよせいは、日本語にほんごもわからないし、法律ほうりつもわからない。家の中いえでも教えてもらえない場合なかが多い。京都市国際交流協会きょうとしこくさいこうりゅうきょうかいの無料弁護士相談むりょうべんごしそうたんは月に2回つきだけ。いろいろな方法ほうほうで、相談そうたんできる機会きかいをもっと増やして欲しい。
- ▶ 京都きょうとの人は心ひとのドアこころが固くてかたなかなか開いてくれない。外国人がいこくじんに対して心たいを開いてもらうためには、外国こころのことも知ってもらう必要がある。そのためには、大人ひらを教育きょういくするより子供こどもを教育きょういくして欲しい。具体的には、外国ほの文化ぐたいてきに触れる時間がいこくを増やすことが効果的ぶんか。また、修学旅行しゅうがくりょこうでアジアふに出かけて行ってじかんもらいたい。子供ふは柔軟じゅうなんであり、実際じっさい自分で行って、見て体験けんすれば子供の気持ちこどもは変化する。さらに、食文化しょくぶんかに関することも効果的かん。
- ▶ 民族学級みんぞくがくきゅうに行くこといで、自分の国じぶんに誇りくにが持てるようになり、日本にほんと韓国かんこくの違いちがなどがわかることちがで、どちらの国ちゅうがっこうも大事こうこうにするようになる。中学校ちゅうがっこうや高校こうこうも含め、韓国かんこく・朝鮮籍ちょうせんせきの人ひとに限らず、外国人かぎ、関心がいこくじんのある日本人かんしんが行けるクラスにほんじんを学校いの一つがっこうにつくって欲しい。
- ▶ 民生委員みんせいいいんは参政権さんせいけんがないとなれないため、外国人がいこくじんはなれない。制度せいどを変えるとかいうのはすぐにはできないと思うが、民生委員おもに、外国人みんせいいいんがどのような問題がいこくじんを抱えているかなどを、行政ぎょうせいから知らせてしいただいて、活動かつどうするようにしてがいこくじんと外国人そうたんも相談おもなどがしやすくなると思う。
- ▶ 最近さいきん、介護関係かいごかんけいで東南アジアとうなんから人ひとを連れてきて資格しかくを取らずという動きうごがあるが、結局けっきょく労働者ろうどうしゃとして受け入れるだけではないのか。そうではなく、在日ざいにちの外国人がいこくじんが増えていて生活せいかつが厳しい方きびもおられるのだから、そういう人かたたちに助成ひとをして資格取得じよせいしてもらえば、日本にほんでの経験けいけんを活かし、日本人にほんじんにも外国人がいこくじんにも対応たいおうできる仕事しごとがしてもらえるのではないかと。
- ▶ 厚生労働省こうせいろうどうしょうの人口動態調査じんこうどうたいちょうさによると、夫婦ふうふの一方いっぽうが外国籍がいこくせきの場合ばあいの離婚りこんが多い。永住権えいじゅうけんをもらう前まえに離婚りこんしてしまうと日本にほんに住みたいと思っすていても母国おもに帰らなければならなくなる。何故なぜ、離婚りこんが多いのか、母国ほこくに帰らなければなら

かた たす こんだんかい かんが ほ  
方を助けることができないか、懇談会で考えて欲しい。

▶ 京都に住み続けたいと思っているが、今、住んでいるところは工場が近く、  
くうき わる かん がいるじゆ う まち ほ  
空気が悪くなっているように感じる。街路樹を植えてきれいな町にして欲しい。

▶ 各国で外国人が暮らしやすくするために、行政はどのようなサービスを手がけて  
にほん はな がいこく  
いるかりサーチしてみてもどうか。日本のことだけについて話しているより、外国  
ひかく しや ひろ やくだ  
のサポートと比較することにより、視野も広がり役立つのではないかと。

▶ 各地で活動している支援団体を把握し、一同に集まって意見交換できる場を作っ  
かくち かつどう しえんだんたい はあく いちどう あつ いけんこうかん ば つく  
てほしい。問題解決に悩んでいる団体が、他の団体の協力を得て支援活動に  
もんだいかいけつ なや だんたい た だんたい きょうりよく え しえんかつどう  
やくだ だんたいかん かお み かんけい  
役立つ。そのためには、団体間が顔の見える関係であるべき。

▶ 外国籍府民の方に対する実態調査、意識調査をぜひ実施してほしい。懇談会に  
がいこくせきふみん かた たい じつたいちょうさ いしきちょうさ じっし こんだんかい  
さんか ひと こえ す あ ひつよう ちょうさ せいさく きそしりょう  
参加できない人たちの声を吸い上げることも必要。調査のデータは政策の基礎資料  
になる。

いじょう  
(以上)